

美術科学習指導案

令和元年 10 月 15 日(火) 第 4 校時

授業の視点

篆刻における印面のデザインを考える学習で、実物大のアイデアスケッチを描いて試行錯誤する際に、デザインの要素を手がかりにすることは、自分らしい作品に近づけることに有効であろう。

I 題材名

表現（デザインや工芸など） 手づくりに込める思い

II 指導目標

使う目的を考え、自分らしい作品をつくることで、手作業でつくられた作品ならではの良さや美しさを感じたり、根気よく制作したりする力を養う。

III 指導計画（7 時間計画 本時は 2 時間目、この後 5 時間計画で紐の彫刻）

1. 篆刻について知る。 文字を探す。
2. デザインの要素を手がかりにして、印面のデザインをする。
- 3～5. 篆刻の技法や工程を知り、計画的に根気よく制作する。
- 6～7. 試し押しと修正を繰り返し、より良い作品に仕上げる。

IV 本時の学習

1. 本時のねらい

使う場面を考えて、自分らしい印面をつくろうと、試行錯誤している。

2. 準備・資料

教師：ワークシート、書体字典 生徒：篆刻セット、教科書、美術資料、筆記用具

3. 展開

学習活動	分	指導上の留意点及び支援の工夫	評価項目（方法）
1 クロッキー （常時活動）	5	○美術に取り組む心構えをつくる。 ○対象物を、短時間に的確に捉える。 ○画材に馴染み、新しい画材を試す。	【技能】 短時間で対象を的確にとらえて、表現することができる。（作品）
2 前時の確認	3	○前時の活動を振り返り、篆刻について確認する。 ○本時は、試行錯誤することで、印象が変わることに気付き、より自分らしい印面を目指すことを伝える。	
3 出会う 本時の内容を知り、めあてをつかむ。			
4 広げる デザインの要素を変えながら、3 cm×3 cm の世界のアイデアを練る。	30	○デザインの要素を例示して、試行錯誤しながら、自由にアイデアを描かせる。	
		学習課題 3 cm×3 cm の世界に、自分らしい印面を表現（デザイン）しよう	
5 表す ここまでのアイデアを基に、修正を加えることで、さらに良い作品にしていく。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の彫り（陰刻（白文）陽刻（朱文）） ・文字の線の太さ ・文字の線（直線・曲線等） ・文字の線の始まり（角・丸等） ・文字の種類（漢字・ひらがな等） ・篆書体の書体 ・篆書体以外の書体（草書・勘亭流等） ・文字の選択と配置（どの文字・何文字） ・縁のデザイン ○複数描いたアイデアを、点検・確認し、修正させることで、自分のイメージに合ったより良い作品に高めさせる。 ・画数・バランス・余白等 ☆アイデアが固まった生徒には、次時の活動を個別で伝える。	【発想構想の能力】 使う場面を考えて、自分らしい印面をつくろうと、様々なアイデアスケッチを試行錯誤することができる。（アイデアスケッチ） 【美術への関心・意欲・態度】 自分の印を自ら手作りすることに、関心を持って取り組むことができる。（観察・つぶやき）
6 振り返る 本時の学習を振り返るとともに、次回から彫りに入ることを知り意欲を高める。	2	○自分らしい印面が表現できたか、振り返る。 ○アイデアが決定したら転写、彫りに入り、さらに、試し押しと修正を繰り返して完成させていくことを伝える。	